

図画工作科学習指導案

呉市立川尻小学校

指導者 吉村 真子

- 1 日 時 平成 18 年 11 月 9 日 (木)
- 2 学 年 2 年 2 組 男子 19 名 女子 14 名 計 33 名
- 3 場 所 図工室
- 4 題 材 名 ざいりょうのへんしん 「見てみて！川尻小水ぞくかん」
- 5 題材について

- 本題材は、図画工作科第 1 学年及び第 2 学年の目標 (2)「材料をもとにした造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。」に基づき、内容 A 表現 (2)「感じたことや想像したことなどを絵や立体に表したり、つくりたいものをつくったりするようにする。」を受けて設定したものである。ペットボトルやいろいろな容器など、持ちよった身の回りの材料から海の生き物のイメージを広げ、材料を組み合わせてたり並べたりしながら思い思いの海の生き物をつくっていくことを通して、児童につくりたいものを構想する能力や、材料を組み合わせ、思いの形につくり上げる能力を育てることをねらいとしている。また、できあがった海の生き物を展示する際に、「川尻小水ぞくかんをつくろう」という目標を設定し、グループによる共同制作を仕組むことで、造形的な活動を通して、児童が友だちとかかわり合いながらお互いの発想のおもしろさやよさに気づき、認め合おうとする態度をはぐくむことをねらいとしている。

- 本学級の児童は図画工作の学習をととても楽しみにしており、意欲的に取り組んでいる。1 学期の題材「お話ロボット」ではいろいろな形や大きさの空き箱を組み合わせ、思い思いのロボットをつくった。重ねたり並べたりした空き箱を接合したり、はさみで切ったものを組み合わせて貼りつけたりする中でいろいろな工夫ができ、個性豊かなお話ロボットをつくることができた。お互いに「すごいね。」「おもしろいね。」と感心しあいながらどの児童も自分の思いを出して楽しく活動していた。

また、題材「たのしいな」では、ポリ袋に描いてみたいものを思いのままに描き、グループの友だちの作品とつなぎ、大きな一つのカーテンをつくった。2 学期の題材「どんどこできるよ」では、新聞紙を自由な幅に切って長くつなぎ、グループで力を合わせ、長い道や色々な方向に広がる道など様々な道をつくった。その中で、グループの友だちと相談しながら活動する児童や、他のグループの友だちとも話し合い、活動を広げる児童もいた。しかし、こうしたグループでの造形活動の中で、なかなか自分の思いを言えず、友だちが言うままに活動する児童や、自分から声をかけられず、「いっしょにやりたいけど…。」と教師に言ってくる児童、進んでかかわりを持とうとせず、ずっと一人で活動する児童もいた。

- 指導にあたっては、以下のように取り組んでいきたい。低学年では、つくる活動自体を楽しむことが大切である。スムーズに造形活動に入り、楽しい雰囲気の中で造形活動ができれば、自然なかかわり合いができると考える。そのために、まず、事前にどのような水族館をつくりたいか、活動の場となる図工室で海の中をイメージできる本の読み聞かせをする。そして、図工室の机やイスを重ねてみたり材料でつつんでみたりしながら、海の中の色々なものに見立て構想させる。その際、お互いの作品を認め合い大切にしようとする意識をもたせるために、「こんな魚がいるからこんな場所がある。」「○○さんの魚はどんなところで泳ぐのがいいかな。」など、1・2 次でつくったお互いの作品を見ながら話し合いをさせる。次に、表現活動をする段階では、グループごとに材料を使って自分たちのつくりたいものをつくらせる。それぞれの児童の発想のおもしろさやよさを認め合うことができるように「ここがおもしろいね。」「ここを工夫したんだね。」などあたたかい言葉かけをしていく。最後に鑑賞の段階では、1・2 次でつくった作品を出来上がった水族館に飾らせ、全員でつくり上げた完成の喜びを味わわせたい。お互いの作品のよさや活動中のやさしさ見つけをして、一人一人が自分の活動に自信をもつことができるようにしていく。

6 題材の目標

- ア 身の回りの材料の形や色に関心を持ち、試行錯誤しながら意欲的に表現することができる。
- イ 材料の組み合わせ方などを工夫しながら、気に入った形や飾りを考えることができる。
- ウ 海の生き物やそれらの泳ぐ水族館を、意図に応じ工夫して表すことができる。
- エ 自分たちの作品の形や色、表し方のおもしろさなどを見つけ合うことができる。

7 題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
・使いたい材料の特徴を生かし、組み合わせ方などをいろいろと試す過程を楽しもうとする。	・材料などをもとにして、思いや意図に応じた形を考えている。 ・つくったり作り直したりしながら、気に入った形を思い付いている。	・自分の思いに合わせて海の生き物や水族館を工夫して表している。	・お互いの作品を横や後ろから見て、自分の気持ちや感じたことを伝え合っている。

8 指導計画（全5時間）

次	学習内容	評 価					評価方法
		関	発	創	鑑	評価規準	
1 2	「川尻小水ぞくかんに集まれ！○○な魚」 ・ ○ 材料からどんな魚をつくるか想像する。 ○ 材料を組み合わせて、自分だけの魚を作る。	○				ア 使いたい材料の特徴を生かし、組み合わせ方などをいろいろと試す過程を楽しもうとする。 イ つくったり作り直したりしながら、気に入った形を思い付いている。 ウ 自分の思いに合わせて海の生き物を工夫して表している。	行動観察（発言） 行動観察（発言・制作過程）
3	「川尻小水ぞくかんをつくろう！」 ○ 出来上がった作品をどんな海に泳がせるかグループで話し合う。	○				ア 使いたい材料の特徴を生かし、組み合わせ方などをいろいろと試す過程を楽しもうとする。 イ 材料などをもとにして、思いや意図に応じた形を考えている。	行動観察（発言） 行動観察（発言）

4 ・ 5 (本時)	「川尻小水ぞくかんをつくろう！」 ○ 材料や, 教室の机やいすなどを生かし, 図工室を海にする。 ○ できあがった水族館を見て, 自分や友だちとつくったことのおもしろさや楽しさに気づき, 認め合う。			◎	ウ 自分の思いに合わせて水族館を工夫して表している。	行動観察 (発言・制作過程)
				◎	エ お互いの作品を横や後ろから見て, 自分の気持ちや感じたことを伝え合っている。	行動観察 (発言) 鑑賞カード

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 材料などをもとにして, 自分の思いに合わせて水族館を工夫してつくることができる。
- お互いの作品をいろいろな角度から見ながら, 感じたことを伝え合うことができる。

(2) 準備物

授業者 水色ビニール袋 ロープ 新聞紙 色画用紙 クラフト紙 シュレッター裁断紙
ガムテープ セロテープ カラーマジック
児童 第1・2次で作った作品 はさみ のり

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
1 本時の課題を知る。 川尻小水族館をつくろう。	・事前にグループで話し合ったイメージを思い浮かべることができるよう, 和やかな雰囲気ではじめられるようにする。		
2 グループで協力して, 材料や教室の机やいすなどを生かし, つくった魚を泳がせるための海をつくる。	・安全に活動するための材料の使い方や, 教室利用の約束について確認する。 ・一人一人の表現を大切にしながら, 自由な雰囲気の中で活動できるようにする。	ウ 自分の思いに合わせて水族館を工夫して表している。	行動観察 (発言・制作過程)
3 できあがった自分たちの水族館に, 自分や友だちの魚を泳がせる。			
4 できあがった水族館を見て, 自分や友だちとつくった水族館のおもしろさ, 楽しさやよさを, 発表する。	・お互いの作品のよさや活動中に協力したこと等, 工夫見つけをして, 一人一人が自分の活動に自信を持つことができるようにする。	エ お互いの作品を横や後ろから見て, 自分の気持ちや感じたことを伝え合っている。	行動観察 (発言) 鑑賞カード